

# レポート 掲 示

## Report Assignment

【 文・経・商・医・理・薬 】

【 Faculty of Letters, Faculty of Economics, Faculty of Business and Commerce, Faculty of Medicine, Faculty of Science and Technology, Faculty of Pharmacy 】

担当者名 Lecturer	梅村 絢美 君 AYAMI UMEMURA
科目名 Course Title	文化人類学Ⅱ CULTURAL ANTHROPOLOGY 2
曜日時限 Day・Period	火4 Tue. 4th Period
題目 Subject of Report	<p>2021年度秋学期 文化人類学Ⅱ 学期末レポートについて</p> <p>下記Ⅰ～Ⅲから一つを選択し、3000字程度のレポートを提出してください。 Ⅰ. 身近な人へのインタビューをおこない、その人のライフストーリーを作成。 言葉の背景にある意味や語り手と聞き手との関係を踏まえた考察を加えること。 (インタビュー方法・作成上の詳細は、第3回目の授業内容を参照のこと) Ⅱ. 下記文献リストのなかから1冊を選び、受講生自身の身近な具体例と関連づけ論じなさい。関連する文献を複数挙げてもよい。 Ⅲ. 講義で扱ったテーマ(複数選択可)について、受講生自身の経験と関連づけ、具体的に論じなさい。</p> <p>【提出期限】2022年1月25日(火)24時 【提出方法】「授業支援」の「レポート」から添付ファイルとして提出すること。 【書式など】PDFファイルで提出。氏名・学籍番号、扱った文献の書誌情報を明記してください。本文を引用する際には、引用箇所の頁数を併記してください。日本語でのレポート作成が難しい場合には、英語での記述も受け付けます。</p> <p>文献リスト ①クロード・レヴィ=ストロース、2005年、『レヴィ=ストロース講義』、平凡社。 ②山口未花子、2014年、『ヘラジカの贈り物』、春風社。 ③D. ネットルとS. ロメイン、2001(2000)年、『消えゆく言語たち』、島村宣男・訳、新曜社。 ④平野啓一郎、2012年、『私とは何か：個人から分人へ』講談社現代新書。 ⑤マーヴィン・ハリス、2001(1985)、『食と文化の謎』、板橋作美・訳、岩波現代文庫。 ⑥関根康正、1995年、『ケガレの人類学：南インド・ハリジャンの生活世界』、東京大学出版会。 ⑦保刈実、2004年、『ラディカル・オーラル・ヒストリー：オーストラリア先住民アボリジニの歴史実践』、御茶の水書房。 ⑧小川さやか、2011年、『都市を生きぬくための狡知』、世界思想社。 ⑨レーン・ウィラースレフ、2018年、『ソウル・ハンターズ』、奥野克己他・訳、亜紀書房。 ⑩A. フランク、2002(1995)年、『傷ついた物語の語り手：身体・病い・倫理』鈴木智之・訳、ゆみる出版。 ※版や訳が複数ある文献もありますが、ここでは入手しやすく読みやすいものを挙げています。上記以外の訳・版や原著を利用する場合には、必ず書誌情報を明記してください。 ※その他、質問等は「授業内掲示板」の「レポートについての質問」で受け付けます。 以上</p>
書式 Format	サイズ ( Size ) : 特に関わない 書式 ( Format ) : 特に関わない No Preference 枚数 ( Number of sheets ) : ( 3000 字程度 )
提出先 Submission 日程 Date	授業支援「レポート」/Canvas LMS より提出 ( To be submitted through "Report" in the Class Support System / Canvas LMS )